

補足～ブレインストーミングについて～

帰り際に浅見さんからうかがいましたが、そもそも「ブレインストーミングって」というご質問があったそうです。この資料をお送りする段階で頂いている質問なので、ここでお答えをしておきます。

ブレインストーミングとは、アレックス・オズボーンさんというもと広告マンが提唱した「アイデア出し会議の手法」です。著書には、「創造力を生かす」などがあります。

ブレインストーミングでは、複数人のグループでアイデアを出し合います。本編でもお話した、判断遅延、質より量、他人の意見に便乗、突飛さ歓迎のルールに則ってたくさんの方のアイデアを出すことを目的としています。行くと、ちょうど脳内が嵐のようになる、という意味での名付けとなっています。

ブレインストーミングで大切なことは「相互作用」と考えています。一人ひとりが10こアイデアを出して、それを4人が持ち寄ると40個のアイデアが出る。これと、ブレインストーミングは同じじゃないの、という論調を見かけることがあります。決してそうではないと考えています。

それは、ルールの中にある「他人の意見に便乗」の部分においてです。その場にいる人が他の人を触発する「シナジー」を抜きにブレインストーミングを語ることはできません。

人によっては「ブレインストーミングはもう古い」と言われる場合がありますが、うまく運用されていないブレインストーミングが多いことが原因の一つではないのかな、と考えたりしております。

今回はありがとうございました。失礼致します。

アイデア・ラボ [β]

代表 池山敦

12月18日 帰路の近鉄特急にて

① アイデアが来るとき  
→ 1つと1つをいかしてあく  
アイデアは平等に。

② アイデアが来ないとき  
→ しゅみでゆうどうしたい。  
ゲーム性があつようか。

③ アイデアを説明する能力

④ アイデアが来ないとき どうする?

→ やっぱりふだんから気を付けて。  
買物とかのとき。カーバス

発見  
がある

今日は録音 → 録音を採る

11段階  
大事

白紙から始まる工夫

習慣を  
二つ

コンビニとお金の商売をかう  
似合ふない色の洋服をみる

⑤ アイデアを実現するには

KJ法はいいけど  
大枠から考えたいのよ

つぎの  
発見

ハードとソフト

ふせとふせの間の  
関係をはかると  
大事

池山さんへの質問タイムのホワイトボード写真